

日本国憲法は希望

私たちの生活のすべてが憲法につながっている



しらが ゆりこ
白神 優理子さん

弁護士(八王子合同法律事務所)



●母親大会と私

若手弁護士の部類で頑張っています。今日はお呼びいただいて、ありがとうございます。母親大会は高校生の時に、東京高校生平和ゼミナールという全国の平和サークルに入っていて、その中で特に私の世代で取り組んでいたのが「世界の子どもを平和像を作ろう」ということでした。「世界の子どもを平和像」というのは、21世紀を核兵器も戦争もない21世紀にした

いということ子どもたちが考えているということ形にしようというものだったのです。

子どもには選挙権がない、だから大人たちに伝える手段は形にして半永久的に残るようなモニュメントを作ることが大事なんだということで、高校生たちで力を合わせて、東京の高校生だけで1000万円のカンパを集めて、新木場にある東京大空襲の早乙女勝元さんたちが作った戦争戦災資料センターに置かせてもら

っています。

高校生の頃からいろいろなところに行って、カンパを集めていたのです。その時に呼んでもらえたのが日本母親大会、有明アリーナで高校生が4万人の前で話すというのは本当に緊張して、壇上に立って順番待ちの段階から伝わったようで、前方にいるお母さんたち数人が「いっせの一せー、頑張ってー」と言ってくれて、すごく気持ちが楽になったのを覚えています。まさにその時初めて母親大会というのを知りました。

「生命を生み出す母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます」という言葉に本当に感動したのをよく覚えています。弁護士になってから講師として呼んでもらえることがたくさんあって、先月も秋田の母親大会に行ってきたり、先週は和光市の母親大会にも行かせてもらいました。埼玉、神奈川、東京の母親大会でも話させてもらって、皆さんとこうしてお話ができるようになったことをうれしく思っています。どんな講演会場よりも母親大会の会場が一番話しやすいですね。すごくこちらの気持ちを受けとめてくれて話しやすいと思っています。

●若者からの質問

デモや署名は効果があるの？

パワーポイントをご覧ください。「日本国憲法はみんなの希望」ということで、まさに今これが大事になっています。安倍政権による9条改憲をストップさせようと、たくさんの方が3000万署名を全国で取り組んでいます。冒頭私がお伝えしたいのは、若い人のところに講師としていくことも多いのですが、若い人から必ず出される質問があります。なんだと思いますか？

10代の若い人たちが必ず私に質問する共通したものがあります。それは「いろんなところで署名やデモ行進を頑張っている人たちがたくさんいるのも知っている、自分自身もやっている、けれど本当にこれって効果があるのでしょうか？」という質問です。最初にちょっとそ

の点についてお伝えしたいなと思います。

私は弁護士として講演活動も頑張っていて、年間60~70回講演しています。でも平日はちゃんと弁護士の仕事をしているのです。私の専門は過労死で、働きすぎで命を落とす方の遺族からご依頼を受けたり、あるいは生存事例、働きすぎでうつ病になった、病気になった、主に働く皆さんの相談、悩みについて主に中心に活動しています。

●マー君の詩

皆さんに今日お伝えしたいのは、この過労死遺児のマー君の詩です。マー君のお父さんは過労死で亡くなりました。小学校一年生のマー君はこういう詩を作りました。

ぼくのゆめ

おおきくなったらぼくは、はかせになりたい
そしてドラえもんのでてくるようなタイム
マシンをつくる

ぼくはタイムマシンにのっておとうさんの
のしんでしまうまえのひにいく
そして、「しごとにいったら、あかん」ってい
うんや

おおきくなってもぼくはわすれはしないよ
とくいなかおをしてつくってくれたかたや
きそばのあじを

ぼくはタイムマシンにのっておかあさん
といっしょにたすけにいこう

そして、「しごとでしんだらあかん」ってい
うんや

しごとのためのいのちじゃなくて、いのち
のためのしごとだとぼくはつたえたい

だから、「しごとでしんだらあかん」ってい
うんや

こういう詩を小学校一年生の時に作ってくれました。ちょっと涙が出てきそうになる中身ですが、遺族の皆さんが共通してこの気持ちを持っているのです。後悔しているんです。もっ

と早く気づいて体を張ってでも家族が職場に行くのを止めればよかったと。すぐさま署名活動や過労死防止のための国会要請活動に立ち上がる遺族なんて一人もいません。一年近くあるいは二年、三年とアルコール中毒になったりして、その中から同じ後悔をするような家族を他に生み出したくないと「家族の会」というのを作って力を合わせ始めました。

過労死防止のための法律を作らせるんだということで、集めた署名の数が55万筆になりました。そして国会で全会一致で過労死防止推進法というのが作られました。世界中で過労死という言葉が入った法律はこの法律だけです。それは不名誉なことでもありますが、防止のための法律を作らせたというのは、考えてみれば、日本政府というのは「過労死なんて存在しない」と言っていたんですよ。「働きすぎて死ぬなんてありえないから」と。それをたくさんの遺族の方が立ち上がり、弁護士、支援者の皆さんと力を合わせてお医者さんに医学意見書を書いてもらって過労死というものを認めさせ、防止のための法律まで作らせるということを達成したんだということを強調したいと思います。

今ではこれまで過労死弁護団の弁護士の敵でもあった厚生労働省が、この法律が作られてからは、過労死を防止するための派遣事業というものに私もたくさん行きます。中学校・高校・大学へ行ってワークルール、働く権利を授業で皆さんに教えるというこの事業の財源を、厚生労働省が今は出しているのです。そういうところまで家族の会の皆さんの力、55万筆の署名の力があって達成することができたんだということを、私は弁護士になって、署名の効果、声を出すこと、デモ行進の効果をすごく感じた事例なので紹介させてもらいました。

●母の活動

他にも皆さんにはきっと数々の署名や声を挙げることの効果を実感した出来事がいっぱいあるのではないのでしょうか？たとえば私の母親は保育士で、その後保育士をやめて12年間市議会議員をやっていました。その12年間

で母親が毎回の議会で署名を進めて頑張って要求し続けたのが、子どもの医療費の窓口負担を無料にするというものです。

母親が市議になった最初のころは幼稚園の年長までしか窓口の利用が認められていませんでした。母親がたくさんの署名やたくさんの人の声を集めて議会で追求し続けて、12年間の間に小学校の卒業まで無料の年齢を引き上げて、その母の後を引き継いだ市議さんが頑張っていて、今では中学校卒業まで年齢を引き上げたということも実現してきました。こういう話は皆さんもたくさんご存知だろうと思います。

●署名とデモの効果

国政レベルでいくと、戦争法案に絡んで私は署名の効果絶大にありました。あれだけの署名を集めて官邸前デモを繰り返したのに、安保関連法、戦争法が通されてしまったとがっかりしている人もたくさんいるんですが、でもあれは本格的に実行ができていますか？安保関連法の第1弾であった駆け付け警護を任務とした南スーダンへの自衛隊の派遣はわずか半年で撤退に追い込まれましたよね。安保関連法に反対する一千万を超える、一千三百万でしたか、あの署名がなければ、私は今も自衛隊は南スーダンで、戦闘地域と言われる場所で戦わされて、命を奪われていたと思っています。一千万を超える皆さんの署名というのは自衛隊の方の命を、現地の方の命を救ったのだと思っています。

世界レベルで署名の効果と言うのであれば、去年の7月7日、核兵器禁止条約が作られました。これもまた世界中で集められた署名の効果です。どれだけの署名が集められたか、国連の前にうす高くモニュメントとして核兵器を禁止させるアピール署名が積み上げられていますよね。世界中で全部核兵器を廃絶させようという署名を全部数え上げれば、およそ、9億筆にのぼるということをや原水協の専従の方からお伺いしました。

署名というのはそれだけの大きな効果が、デモ行進や声を挙げるということは、政治家に対

してこれだけの人が願っていることにつながるのであれば、次の選挙であなたを落としますよ、という大きなプレッシャーになるんだということは、理論的にも明らかですし、実績としてもここまで明らかになっているんだということを、なぜ私が冒頭で伝えたかということ、若い人たちがその実感が持てずに苦しんでいるということなので、変えることができる、変えてきたんだ、あなたにその力があるんだということを、私たちが笑顔で明るく語ることがとっても大事なんじゃないかと思ったので、今日は先にお話しさせてもらいました。(拍手)

●私たちはどんな時代に生きているのか

さて、本題の憲法の話に入っていきたいと思います。今、私たちがどんな時代に生きているのかということところです。映画監督の太田さんという人が、ツイッターでこういうものを流して、ものすごいリツイートがたくさんされているものですが、今この時代を表していると思います。

- お友だちは女性をレイプしても逮捕されない。これは安倍首相のお友だちのジャーナリストがレイプをしたら、まったくそれが逮捕されないと。
- 親友には獣医学部をプレゼント。これは加計学園の話ですね。
- 支持者には8億円ディスカウントされた土地。これは森友学園ですね。
- 奥様は税金でやりたい放題。
- 自衛隊は戦争へ。
- こんな政府。もう終わらせよう。
- それができるのは国民だけだ！

ということです。偽造、貢贈、安倍晋三、というのを、若い国会議員の方が言っていました。まさに税金で国民のためにという役割で働いている政治家たちの国会の場で公文書を偽造すると、ここまで日本の政治は来てしまったかと、戦後最悪の政治の中に私たちがいるということはもう自覚せざるを得ないということに

なっています。

この戦後最悪の政治を作り出した安倍政権は、残念ながら総裁選で安倍首相が三選されて、それ以来ずっと彼が言い続けているのが、秋の臨時国会で憲法を変えるという、改憲の発議をしたいということを豪語しているような状況になっています。つまり、もう私たちの目の前には憲法を変えるのか、変えないのか、どっちにするのかという選択肢が目の前に突き付けられている。関心があるかなんかろうが、望もうが望ままいが関係なく、その選択肢が私たちの目の前に突き付けられている状況に今私たちはいるんだということになっています。

●私の生い立ち 基地の町で育つ

ですから今日の私の話は、前半と後半に分けてまして、前半部分で、そもそもここまでして安倍政権が変えたがっている今の憲法って、どういことを決めていて、私たちの生活にどうかかわっているのかということ、もう一度皆さんと再確認したいと思っています。その上で後半は、安倍政権が狙っている具体的な9条の改憲案、憲法を変える、この中身が実行されてしまった場合、私たちの生活は、日本はどうなってしまうのかということ、できればかなりリアルに皆さんと一緒に考えたいと思っています。

前半は私の話から入ろうと思います。あまり弁護士が上から目線で教科書的に「憲法ってこうなんですよ」と話しても、皆さんご存知の方が多と思うので、私の実感を通して、冒頭でご説明したとおり、私は高校生の頃から平和活動をやっていました。ところが別にともともすごく元気な子だった訳ではなくて、中学校時代の私は、「どうせ人間の歴史は、過ちの繰り返し、私なんかが何を言っても変わらない。生きている意味なんてない」と本当に思っていたのです、中学校まで。意外ですよ。どこに行ってもいつも「白神さん、元気だね」っていういろんな講演先で言われるんですけど、中学校までの私は本気でこう思っていて絶望していました。

私は神奈川県海老名市出身です。ご存知で

しょうか、米軍厚木基地、座間キャンプというものに囲まれていて、小学生の頃から友だちと町中に遊びに出かけて行けば、その辺にうろろると米兵がいて、「レッツ ゴー トゥー カラオケ」とか言われて、追いかけて「ノーサンキュー、ノーサンキュー」と言いながら逃げたりしてきました。だから関心はもちろん小学生の頃から、「何でもとも海外の基地が日本にあるんだろう」という疑問を持っていましたし、そういう怖い思いをした私が小学校の高学年の時に、私と同じぐらいの年齢の子が、1995年沖縄で小学校5年生のお使い帰りの女の子が、米海兵隊員3人にレイプされるという事件が起きました。

沖縄県民が総決起集会を開くまでは、明らかな米海兵隊員の加害者を取り調べることも日本の検察はできなかったということに、私は自分のことのように、自分自身が怖い思いをしていたのでショックを受けました。けれど、目の前で広がる基地を昔から見ていたので、余りにも米軍基地は広すぎる、これをどうにかできるとはとても思えないと感じています。沖縄の若い人もそう言っていました。あまりにも基地が身近にありすぎると当たり前だし、どうにかできるとは思えないという気持ちでした。

小学校4年生の頃から私は進学塾に通っていました。親は学校の授業だけではついていけるが大変だろうから、塾に行かせたいと思ってくれて、1歳下の弟と私が同じ塾だと比べられるのはいけないから、別々の塾にとわざわざそんな配慮まで親はしてくれました。たまたま私が行った塾は超進学塾で、AクラスからFクラスまで成績順に決められて、クラスの中の席順までが成績で決められていて、2、3か月に1回はクラス編成テストがあり、最下位まで実名で名前が全部出されるという恐ろしい塾だったのです。本当に私は怖くて、怖くて勉強していました。最下位に白神優理子って書かれるのはさすがにちょっと嫌だなという気持ちで、脅迫されるように暗記が中心の勉強をしていました。

人間の歴史の年表を表面だけでなぞると、皆

さんがっかりしませんか。昔から人間は差別をするし、戦争をするし争いごとをしているし、最終的には核兵器まで作りだしてしまうと、どうせ人間の歴史は過ちの繰り返しなんだと、私は大人の顔色を窺って、下のクラスにならないように大人が望む回答を忖度して、それでいて授業の内容はわかるけど、学校ではみんなから嫌われないようにするために、勉強がわからないふりをするなど、忖度をして空気を読むということすら、なかなか苦手でうまくできないという劣等感に毎日さいなまれていました。何を言っても社会を変えるなんてことはできないだろうと思っていました。

●平和ゼミナールと憲法の出会い

そういう私が一気に考え方を変えて、自分自身がみんなと一緒に社会を変えることができるんだと思えるようになったのは、まさに日本国憲法との出会いで、私の生き方を180度変えてくれました。平和ゼミナールでは高校生の仲間たちと一緒に、戦争体験者、被爆者の方の話や毎月のように聞きました。思い出したくない残酷な自分の体験を、高校生に一生懸命語ってくれました。まだ赤ちゃんだった自分の弟が東京大空襲で焼夷弾が落とされたときに、火の粉が弟の口の中に入って、弟は火を吐きながら生きながらにして焼き殺されていったんだという話を聞きました。

お姉さん一家が全滅したという被爆者の方の話も聞きました。お姉さん一家が大やけどをして、一列に並べられて、3歳、6歳の子どもたちは最後の最後まで、「死にたくない、死にたくない」と泣き叫んでいたと、「一人で死んでいくのは怖い、お母さん、おばあちゃん、一緒に死んでくれんね」と言いながら、3歳、6歳の子どもたちが死んでいったという話を聞きました。

その話の内容の残酷さはもちろんですが、もう二度とこんな思いをさせたくないという気持ちから、一生懸命ひた隠したい自分の残酷な体験を、私たち高校生に話してくれるその生きざまというか、その姿勢というか、そこに私は

心を打たれて、こんなに被爆者の方が、特に放射能の影響でいつ死ぬかわからない、死と隣り合わせでいながら、60、70歳の方々がこうして話してくれるというのを目の前にして、ただかたかた10何歳の小娘の私が、「どうせ人間の歴史は過ちの繰り返し」なんて言って、そんな諦めていていい問題じゃないんだと、「命のバトンを受け取ったな」と、思いました。

●命のバトンを引き継ぐ

私自身がこのバトンを受け取って戦争のない社会を作りたいという、初めて生きる使命感を被爆者の方、戦争体験者の方にもらったと思っています。何人かの戦争体験者の方が、話の最後に話してくださったことがあります。それは、「今まで私は高校生の皆さんに被害の話ばかりしてきましたが、私は単なる被害者ではありません。皆さんの時代と違って、私たちの時代は学校で、天皇は神様だ、この戦争は正しい戦争だ、と教え込まれて、最終的には戦争に賛成してしまった世代なのです。このことを皆さんに告白しなければなりません」と、数少ない戦争体験者の方が教えてくれました。

この時初めて私は知りました。20万人以上が殺された沖縄戦、10万人以上が一夜にして焼き殺された東京大空襲、今では何十万人を超えるたくさんの方が殺されている原爆の投下の前に、日本はアジアに侵略をして、2000万人以上の人を殺してきたことを知りました。高校生の時に私が出会った詩があります。竹本源治さん、この方は戦争中に小学校の先生をしていてたくさんの教え子たちを戦場に送り出しました。戦後このような詩を作りました。

いくさし せる おしえじ
戦死せる教え見よ

竹本 源治

ゆいて へらぬ おしえじ
逝いて還らぬ教え見よ
わたし て ちまみれだ！
私の手は血まみれだ！
きみ くび つな
君を縊ったその綱の
たん わたし もって
端を私も持っていた

しかも人の子の師の名において
あ あ
嗚呼！

「お互いにだまされていた」の言訳が
なんでできよう
ざんき かいこん ざんげ かせねて
慙愧 悔恨 懺悔を重ねても
それがなんの償いになろう
つぐな
逝った君はもう還らない
かえ
今ぞ私は汚濁の手をすすぎ
おだく
涙をはらって君の墓標に誓う
「繰り返しさぬぞ絶対に！」

という詩を残しています。今でも教職員組合の皆さんは「教え子を再び戦場に送らない」というスローガンを掲げて活動しています。教員に限らずあらゆる職業の方々がこういう後悔をしていたんだということを知りました。医療従事者の方々は、「二度と白衣を戦場の血で染めない」というポスターを掲げています。公務員の方々は、「二度と赤紙を配らない」ということをスローガンにしています。あらゆる職業の人たちが、「もう二度とだまされない、もう二度と子どもたちを戦争の道具にしない」という決意を固めているということを高校生の時に知りました。

●憲法の原点 “二度と戦争をしない”

そしてこれが日本国憲法の原点だということを知りました。憲法の前文にはなぜこの憲法を確定することになったのかということを示している一文があります。「政府の行為によって再び戦争の惨禍の起こることの無いようにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する」と、明確に書いてあります。戦争の否定、二度と戦争をしない、政府の行為によって繰り返させない、これが日本国憲法の譲ることのできない明確な原点だということ強調したと思います。

戦争の否定から今後に向けて、なぜ主権が国民に存することを宣言することになったのかというのは、皆さんはどのようにお考えでしょうか？ 私が高校生の時に学んだのは、国民が主役じゃ無かったから、戦争を止めることがで

きなかった、戦争を起こしてしまったということを知ったのです。もともと戦争に反対する人たちはいたはずです。その戦争に反対していた人たちはどうなったのでしょうか？ 戦争の前線に連れていかれて殺されたり、あるいは治安維持法という法律の下に、物を盗んだり人を殴ったりしていないのに、戦争に反対していたという心の中の問題だけで逮捕されて拷問されて虐殺されていったという話を聞きました。

国民は主役ではなかった、国に都合の悪いことを言った国民の声というのは殺されてまで、ねじ伏せられて弾圧されたのだと、それがあの過ちを生み出した原因だったのだと。だからこそ、今度こそ、国民を主役にするんだということ憲法は徹底してここで明確に宣言している。国民を主役にするからこそ、平和な社会を作るための唯一の道なのだということがここに込められているのだと思います。

●憲法を守る義務を負うのは誰か

さて、国民を徹底的に主役にするために憲法はどのようなシステムを開発したのでしょうか？ 私たちの若手弁護士会で紙芝居を作りました。イラストを見てください。王様が国民をいじめています。そこに憲法が「そんなことをしてはいけませんよ」と言って、手かせになっています。中学生、高校生にわかりやすいようになっています。これは国家権力者、安倍首相です。憲法は誰が守らなければならないものなのか、ということがこのイラストで分かると思います。

憲法を守る義務を負っているのは誰なのでしょう？ 首相、国会議員、国務大臣、天皇、国民？ この中で、国民以外は全員憲法を守る義務を負っています。国民は憲法尊重擁護義務を負っていないのです。憲法第99条に憲法尊重擁護義務というのが書かれています。首相や国会議員、国務大臣をはじめとする国家公務員はみんな憲法を守るという義務を負っていると書いてあり、この中には天皇も入っています。国民は入っていないのです。憲法を守る側ではなく、守らせる側なのだということを心に刻み

付けていただけると、今日私が話しに来たかいたがあったなと思います。

2012年に自民党は憲法改正法案を発表しました。その中で憲法99条の憲法尊重擁護義務がどのようになっているかという、天皇が外されています。そして国民を新しく加えています。つまり天皇が守らない、国民が守る義務を負っている憲法に変換したいというのが自民党の考えです。

●日本国憲法の大原則「立憲主義」

この立憲主義というものが最も土台で、私たち国民を主役にするという仕組みになっています。国民が自由で何でも言いたいことを言って、集会をしたりデモ行進をしたり、好きな職業を選んだり、好きな人と結婚したりする、そういう自由を国家権力者は奪ってはいけません。国家権力者の手足を縛っているのが日本国憲法の大原則、立憲主義で、これは全く一切の例外がないというのが日本国憲法のすごいところでは。

世界によっては、緊急事態条項で例外を作っているところも多くあります。日本国憲法はあえてその例外を作りませんでした。どんな時でもどんな緊急事態でも、何があろうともいつも権力者は手足を縛られるのだと、国民がいつも主役なんだということを説明しました。これは戦争のあの痛恨の後悔が、奪われた命があるから、その上にこの大原則が作られたということになります。

私はこの大原則を高校時代に知って、とても衝撃を受けました。この立憲主義を中学校や高校で教えてもらった人はいますか？ いないですよ（いました）。だから憲法というのはなんか良いことを言っているかもしれないけど、校則みたいなものだと思っていました。私を縛る大人の世界の校則みたいなもの、それが法律で、どうやら憲法はその親玉らしいから、なんか良いことを言っているけど結局私を縛るものなんじゃないかと思っていたのです。

●校則とは違う!

しかしたくさんの戦争体験者の方が、憲法こそが平和な社会を作るための希望なんだと言われるので、高校の仲間たちと憲法を学んでみたら、「おお!校則と正反対だった」ということが初めて分かりました。ブラック校則が大問題になっていますが、憲法はどんな髪の色をしたっていいと言っています。どんな格好をしたって、何を着たっていいんだと、国に逆らうことだって、大人の都合の悪いことだってなんだって、言いたいことを言えるんだと、そういう私たちの自由を奪ってはいけないと国家権力に命令している。

校則の正反対が憲法だと知って、とても衝撃を受けたし感動もしました。それがたくさんの命が奪われた上に作られた人類の叡智の結晶だということを知ったからです。人間は決して同じ過ちを繰り返す醜い生き物ではないんだ、過ちから学んで、そこから素晴らしい画期的なシステムを作り出すことができ、歴史を前に進めてきたのが人間なんだということを、私は憲法を通して初めて知りました。だからそのおかげで人間を好きになることができたし、ということは、自分にも力を合わせればそういうことができるのではないか、次の世代に役立つ生き方ができるのではないかと思えて、自分のことも好きになることができたのが、私と憲法の出会だったということになります。

●最重要な13条

さてその憲法の中で、一番大切な条文は何かという話をしなければいけないのです。私たち若手弁護士が憲法の心臓部分だと思っているある一番重要な条文があります。ご存知の方も多いと思いますが、憲法13条です。「すべて国民は個人として尊重される」と書いてあります。一人ひとりみんな様々な考えを持った、個性を持った、趣味を持ったその人間が一人残らずみんな一人ひとり人間として大事にされるのだ、命、自由、幸せになる権利、これが国の政治の上で最も大事なのだということを書いているのが日本国憲法第13条です。

憲法というのは、この13条のためにあらゆる条文があるという仕組みになっています。憲法をパラパラとめくって読んでいただき、すべての条文がこの13条に通じるという意識で憲法を読んでもらえるといろんな発見があるかもしれません。立憲主義の大原則も、結局この一人ひとりの命と自由と幸せを実現するために、この権利を国家権力が奪えるようになってしまったら、13条の意味がないということで、この13条を実現するために立憲主義というのもある訳です。

●13条を支える9条と25条

そして土台からこの13条を支えているのが9条と25条です。戦争が行われてしまえば、幸せも何もない訳ですよ、命が奪われる訳ですから。そこで絶対に戦争をしない、戦争の道具になる武器だって戦力だって一切持たないということ、世界に先駆けて宣言したのが日本国憲法第9条です。これは併せてもう二度と侵略行為をしませんというアジアに対する約束、国際的な約束でもあります。

さて、戦争がないというだけで幸せな毎日が送れるでしょうか? 明日食べるご飯がなければ、病気になったらお金の心配がなく病院に行けなければ幸せも何もありません。そこで憲法第25条で、すべての皆さんが健康で文化的に生きる権利があるのだと、しかも第2項が大事です。そのために国や行政が社会福祉をさらに良くしていく義務があるんだということまで定めたのは、これも世界に先駆けた先進的な条例なんだと、この二つが土台となって一人ひとりみんなが人間として大事にされるんだということ、憲法13条を実現する仕組みになっているのが日本国憲法だということです。

これはあの戦争の時代と180度変わったと思いませんか? これを私が図式化したものがあります。憲法13条によって国家の上に国民が立っているんですよ、日本国憲法というのは、この一人ひとりの国民が命と自由と幸せを実現するために仕事をするんだ、その義務があるんだというように憲法13条によって決められ

ているからです。

戦争のあの時代は、国家がトップにありましたよね。天皇を神様としていただいて、その天皇を神様とした国家という仕組みを守るために、何だったら命も捨てなさいと言われていた、国家の真下に奴隷以下の存在として国民がいたのがあの戦争の時代でした。それが憲法 13 条、日本国憲法によって 180 度逆転して私たち国民がトップに立って、むしろ私たちが国に対して憲法を守れよと、私たちの自由を奪うなよと、もっと福祉の制度をよくしなさいよと命令する立場になったのだということを強調したいと思います。

●憲法 97 条を削除させない

さて、先ほどお伝えしたとおり、私が何に感動したかということ、これらはいきなり目の前に天から降ってきた条文ではなく、たくさんの血を流した上で、その後悔から築き上げられたものなのだと、人間の歴史は教訓から学んで前に進んでいるのだ、ということがわかって感動したと伝えました。それが明確に書いてあるのが憲法 97 条です。2012 年の自民党の改憲案は、この 97 条を丸ごと削除しています。この条文を今改めて皆さんと確認したいと思います。

「この憲法が日本国民に保証する基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であって、これらの権利は、過去幾多の試練に堪へ、現在および将来の国民に対し、侵すことのできない永久の権利として信託されたものである。」と、明確に書いてあります。勝ち取ってきたものということを憲法は私たちに 97 条で伝えてくれています。

先程来、私は戦争の話をしてきましたが、もっとさかのぼっていけば、お殿様のために年貢を納めなければ、年貢が多すぎると直談判しただけで、裁判にもかかけられず首をはねられた時代がありました。またもっと時代をさかのぼれば、超大金持ちの 1% の人にしか選挙権が与えられなかった時代もありました。そこから一生懸命声を挙げて闘ってっていつて、まずは男性に選挙権が認められました。そして女性という

だけで選挙権がなかった時代があり、女性たちが力を合わせて闘って、声を挙げて勝ち取ったのが女性の参政権です。一つ一つ声を挙げて闘って、勝ち取ってきたものなのだとということが 97 条に書いてあり、これを丸ごと削除しようとしているところにも、自民党政権の性質や本質がよく表れています。絶対に削除させたくないと思っています。以上で前半を締めくくろうと思います。

●日本国憲法は世界の中心

最後に一言お伝えしたいことは、私にとって日本国憲法というのは、存在自体が人間の歴史がちゃんと前に進んでいるのだということを証明してくれる希望の存在だと思っています。そして、憲法を希望だと考えているのは私だけではなく、世界でも紛争国の国々にとっては、平和を権利とした日本国憲法は喉から手が出るほど欲しいのです。

今、国連では憲法を一つのモデルにした平和のための権利条約を作ろうとする動きがあり、推進決議まで上がっているということで、世界中に日本国憲法は希望を伝えています。そして実際この憲法に向かって第一歩をすぐ踏み出したのが「核兵器禁止条約」です。すべての戦力を放棄するということにまではいっていませんが、少なくとも核兵器と人間は共存できない、これを禁止しようという条約が生み出されたことで、世界にとっても憲法は希望の存在だということをお伝えしたいと思います。

さて、この希望の存在である憲法が、邪魔でしようがないというのが今の安倍政権です。急ピッチにこの憲法を変えようと動いているということで、後半に入ります。

●安倍政権と 9 条改憲

疑問に答える 4 つのパターン

そもそも安倍首相、安倍政権というのは核兵器禁止条約についても、被爆国でありながら会議に参加すらしなかった。ジャパンと書かれたこの日本の席は空席で、そこに大きな折り鶴が置かれて、「あなたがここにいてほしかった」

というメッセージが添えられていました。被爆者の方々は安倍首相に面と向かって、「あなたはいったいどこの国の首相ですか」と抗議をしたということがニュースになっていました。そんな安倍政権が、9条を改憲しようと明確に発言したのが、去年の5月3日の憲法記念日でした。もともと自民党というのは憲法を変えるということを一致点にして集まっている政党ですが、ここまで明確に「9条を変えたい」と首相が発言し、しかも2012年までに変えたいというスケジュールまで明確にしたのは歴史上初めてです。

さて、憲法を変えられたらどうなるか、という質問をたくさんの方からいただきますが、あらゆることが変わります。日本の形そのものが変わってしまうのです。今日は4つのタイプに分けて説明していきたいと思います。

〈パターン1〉

・首相の改憲発言は憲法違反

憲法の変えられようとする中身については話が小難しくよくわからない、けれども内容はどうあれ、最高法規である憲法を変える以上はルールは守らなければいけない、という正義感の強いタイプの方は、皆さんの周りにいらっしゃるでしょうか？ 弁護士は大体がそういう性格の職業集団ですが、ぜひ最初に強調していただきたいことは、安倍首相のこの憲法を変えたいという改憲発言自体が憲法違反なんだということを伝えてほしいと思います。憲法を守らなければならないのは安倍首相なのです。憲法を守らなければいけない、つまりルールを守らなければいけない側が、「このルールは守りたくないわ」と言って、ルールを変えてしまうようなことになってしまったら、もはやルールの意味がないですね。

つまり安倍首相の改憲発言というのは、独裁発言であり、立憲主義に反する憲法違反、ルール違反の発言なのだという事を皆さんの周りの方に強調して教えてあげてほしいと思います。国会でうそをつくような人に、最高法規を変える資格があるのかという事はぜひ、正義

感の強い人に何が何だろうと内容がどうであろうと、今、嘘をつくような人なんだよと、そういう人たちに憲法を語る資格はないんだという事も併せて押さえてもらえるといいのではないかと思います。

そして、そもそも国民が望んでいないという事も伝えておく必要があります。総裁選があった時に、次の首相に望むことは何かという世論調査を新聞社が行ったところ、圧倒的多数が、社会保障、社会福祉、労働条件など、生活にかかわることでした。憲法を変えてほしいという人の割合は4%程度でした。そもそも国民が望んでもいないことを、憲法を守る義務を負っている側が変えたいというのは、憲法違反なのだという事を最初にお伝えしたいと思いました。

〈パターン2〉

・集団的自衛権の行使である

情の厚いタイプの方へ、皆さんの周りにはたくさんいらっしゃると思います。難しいことはよくわからないけど、人が殺されるのは絶対に嫌だ、自分も子どもたちの命も何よりも大切だよと、そういう皆さんに教えてほしいのは、憲法9条に書き込まれる自衛隊というのは、災害支援のための自衛隊ではない、海外に無理やり連れていかされて、人を殺し、殺されることを強制される軍隊としての自衛隊が、憲法9条に書き込まれることになるんだと、ここをぜひ皆さんに強調して周りに広めてほしいです。

なぜかというと、嘘を教えられている人が大変多いからです。安倍政権は繰り返し言います。「大丈夫、今の自衛隊をそのまま書き込むだけだから。現状は何にも変わらない」と。でも、そもそも何も変わらないんだったら、憲法を変える意味があるのかという話です。しかも、憲法を変える国民投票などをやるためには、およそ850億円の税金が投入される訳です。何にも変わらないことのために850億円もの税金をつぎ込むことができるほど日本はリッチな国なのかと、ぜひ皆さん周りの人に問題提起をしてほしいと思います。実際には変わるんです。だから850億円も税金をかけようとしている

のです。

・憲法第9条第2項、戦力の不保持

さて、なぜ変わるのかということについて話します。理論的な話に入っていきますが、憲法第9条、第2項、ここが問題になります。ここが大事です。陸、海、空軍、その他の戦力は保持しない、と明確に書いてあるのが9条第2項です。ここで皆さんは疑問に思うでしょう。では自衛隊は何なのと。自衛隊が作られた当時から、国民は声を挙げました。軍隊はもう持たないと言ったのではないか、なんで自衛隊を作るんだと。そこで歴代自民党政権はこう回答してきました。「大丈夫ですよ皆さん、自衛隊は戦力に当たらないのです、憲法9条2項が禁止している戦力に当たらないのです」なぜなら、この個別的自衛権の範囲でしか行動しないから、戦力ではないんだと言ってきました。

個別的自衛権とは何かというと、どこかの国が日本を攻撃し、攻撃されたから自分の身を守るために必要最小限反撃をする。この範囲であればギリギリ憲法9条が禁止している戦力には当たらないと、歴代自民党政権は言ってきたのです。専守防衛論、つまり攻撃されたときだけの形なんですよと。ですから「お約束します、自衛隊は決して海外には派兵させません」と。

すでにこの約束を破っていますよね。あるいは国連軍などの軍隊には参加させません、日本が攻撃されてもいないのに、海外に軍事力を行使するような集団的自衛権の行使は憲法違反だから、絶対にさせませんという約束を歴代自民党政権はしてきたのだから、自衛隊は憲法違反ではないんだと言ってきた訳なのです。

私がここで強調したいのは、この話自体が眉唾ですよ。だって、どこまでが専守防衛なのか、そんなの線引きできるのか、大体そもそも攻撃される以前に信頼関係を作って話し合いで問題を解決しよう、それによって平和を守ろうというのが憲法9条じゃないですか。どんな理由があっても、戦力、軍事力、実力は持つてはいけないんじゃないか、これが憲法9条の非武装平和主義、これが憲法9条じゃないかと

いう話になります。憲法9条があるからこそ、ギリギリ自衛隊が軍隊になり切ってこなかったんだという事を強調したいんです。

すでに自衛隊は海外に派遣されているんだから、憲法9条があっても意味無いじゃないかという意見もいっぱいありますが、憲法9条は、今も大きな役割を果たしているのです。先ほどお伝えしたように、集団的自衛権の行使が内容となった安保関連法が通されたにもかかわらず、なぜ自衛隊が南スーダンの派遣を半年で撤退させたのか、これは憲法があるからです。そのもとに皆さんが署名をたくさん集めて、声を挙げたからです。

絶対に戦力を持つなという憲法があり、自衛隊の自の字も書いていないこの憲法があるから、ギリギリ自衛隊が軍隊にならずに、海外の武器が飛び交っている前線に自衛隊は連れて行かれない、ギリギリのところ自衛隊は軍隊になり切らずに、自衛隊員の命を守ってきたのは、今の日本国憲法9条2項が歯止めになってきたからだという事を強調し、皆さんにはぜひご理解いただきたいと思っています。

・安保関連法と集団的自衛権

これを全面的に変えてしまうのが、安保関連法に書き込まれた集団的自衛権の行使です。どこかの国がアメリカを攻撃しています。日本は見ているだけ、なのに次の駒では、アメリカと一緒に攻撃をします。一言でいうと、集団的自衛権の行使というのは、他人のけんかに首を突っ込む、しかも、銃をぶっ放す形で首を突っ込むというのが集団的自衛権の行使です。

どこかの国の立場に立って皆さんに想像してほしいのですが、その国は日本を攻撃しましたか？ してないですよ。それなのに自分の頭の上に降り注ぐ爆弾の弾薬を提供したいというのを日本の自衛隊の目の前でやっている訳です。彼らにとって日本というのは侵略国家です。集団的自衛権の行使は侵略国家を作ることができる、こういうシステムなのです。

これは憲法第9条、2項が禁止している戦力に当たりますよね。これが戦力に当たらないと

いのであれば、もう何も戦力ではないのです。戦力中の戦力、それが集団的自衛権の行使です。これを内容としているのが、安保関連法、戦争法なのだという事になります。かろうじて、この戦争法が実行されないように、集団的自衛権の行使ができないように、歯止めになっているのが今の憲法なのです。だから、安倍政権は全面的にこの集団的自衛権の行使をするために、歯止めを取っ払いたいと、今急ピッチで憲法9条を変えようと動いています。どのようにこの歯止めを取っ払うかという点、

一番有力とされている自民党の9条改憲案はこちらになります。読み上げますと、「わが国の平和と独立を守り、国及び国民の安全を保つため必要な自衛の措置」を取ることができる。「必要な自衛の措置」というところですが、この案の検討段階では、ここに歯止めを入れようという話が自民党の中で出ています。必要最小限の自衛措置の措置というように、ちょっと範囲を狭めようという案もあったのですが、検討過程でこれは却下されました。

つまり、何の歯止めもない自衛と言え、何でもできるという仕掛けになっているのが今の自民党の9条改憲案です。つまり、この自衛の中には集団的自衛権の行使が入る事になります。そしてそのための実力組織として「自衛隊を保持する」という条文案になっているわけですから、全面的に集団的自衛権の行使ができるという自衛隊を憲法9条に書き込むというのが自民党の改憲案だという事が明らかにわかる、逆に言えば批判がしやすい内容です。これが明確に表れているのが、9条改定案です。

そこで集団的自衛権の行使を自衛隊がやることになったらどうなるのかを、皆さんと一緒に考えたいと思います。これが今まで集団的自衛権の行使という事で行われてきた戦争の一覧表です。左側にある国は皆さんもよく知っている旧ソ連、アメリカ、イギリス、フランス、など大きな国です。それに対して右側の国は世界地図ですぐにわかりますか？ ハンガリー、レバノン、ヨルダン、チェコ、ニカラグア、チャド、グレナダ、小さい国なのですよ。

つまり、集団的自衛権の行使というのは大きな国が小さな国に軍事攻撃をしているときに、大きな国のお仲間が大きな国同士でつるんで小さな国を攻撃する。そういう時に大きな国同士がつるむための理屈として使われてきたのが集団的自衛権の行使なのです。これをドラえもんに例えて、「ジャイアンがのび太をいじめているときに、ジャイアンと一緒にのび太をいじめるスネ夫になってしまう」のが集団的自衛権の行使の歴史上の使われ方なのです。

日本が集団的自衛権の行使をするときに、つるむことになる国はどこですか？ これはもうアメリカですね。日米安保条約で日本はアメリカと軍事同盟を結んでいます。ではアメリカというのは、この登場頻度の高さ、グレナダ侵攻などは国際決議で、国連から非難決議が挙げられても無視して、軍事攻撃をしてきたのがアメリカです。ジャイアン中のジャイアン、そこと一緒に日本が攻撃をすることになるのが、集団的自衛権の行使です。それを憲法上歯止めを取っ払おうというのが9条改憲だという事になります。

・アメリカの戦争

一体アメリカはどんな戦争をしてきたか、アメリカが起こしてきた戦争でどれだけの人が死んで来たのか、殺されてきたのかというと、あまり人数はあてになりませんが、死者数をカウントできないほどアメリカの戦争は残虐な中身ですので、ただ割合を見てほしいのです。

アメリカの戦争によって殺された人の7割、8割は武器を持たない民間人だという事を強調しておきたいと思います。写真を持ってきました。こちらはイラク戦争で米軍が落とすクラスタ爆弾によって全身不随になった少年の写真です。アメリカはクラスタ爆弾をたくさん戦場で使います。クラスタ爆弾というのは、残虐兵器として認定されています。上空何メートルかのところで小さな小爆弾をパーツと散らして、多くが不発弾になるのです。

その不発弾というのがキラキラと輝いているので、現地の子どもたちはおもちゃだと思っ

て、振り回して遊んだり、サッカーボールの代わりにして蹴飛ばして遊んだりして一気に爆発して、殺されているのは子どもたちなのです。これがクラスター爆弾です。彼は全身不随になりましたが、私が読んだイラク戦争の手記では、さっきまで元気に飛び回っていた少女が、一瞬にして肉の塊になってしまったという手記もありました。

こちらはアフガニスタンで、路上の仕掛け爆弾で遊んでいたときに爆発し重傷を負った子どもの写真です。私はイラク戦争の実際の映像を見たことがあります。「戦火の中の子どもたち」という映画になっていました。全部現実の映像です。私が忘れられないのは、イラク人のお父さんが赤ちゃんを抱っこしていて、その真上に米軍が空爆をして、赤ちゃんの脳みそが飛び散ってしまって、その飛び散ってしまった我が子の脳みそを泣き叫びながらかき集めているという映像です。とてもつらかったです。

そして診療所の中にカメラが入っていくと、血だらけで包帯をぐるぐるにまかされている子どもたちばかりが診療所に寝かされていて、その横で彼らのお父さんたちが診療所の壁に自分の頭をガンガン打ちつけながら、「神様、神様、神様」と泣き叫んでいる映像がありました。外にカメラが向かっていくと地平線を埋め尽くすくらい、子どもたちの小さなお墓が無数に建てられているのが、イラクの実際の姿でした。

今でも自衛隊員がそういうところに協力していますが、集団的自衛権の行使だと言えば、前線までも自衛隊の若者が連れて行かれて、彼らの頭に降り注ぐ爆弾や弾薬を提供し、彼らに銃をぶっ放すことまでできるようになる、これが9条改憲の本質なのです。日本を守ることとは全く関係がないのです。お友だちの国と一緒に出て行くかという話なので、日本を守るといふ事とは全く関係がないといふことは何度も何度も言いたいですね。そして、それがとりもなおさず日本に対する憎しみの種を海外にばらまくことになるのだといふ事を強調したいです。

もちろん自衛隊の方々自身が殺されるとい

う問題も深刻です。しかしそれだけでは収まらず、日本に対する憎しみが炎のように燃え上がって、イラク戦争の憎しみによって、国際テロ組織のISが生まれたという事はみんな分かっていることと思います。そもそも理由となった大量破壊兵器がなかったというのが、アメリカ本国の調査でもわかっています。こんな戦争に日本の自衛隊員をたくさん巻き込んでいて、日本が憎しみの対象となって、ここ自体がテロリストのターゲットになる、これが9条改憲の本当の中身なんだという事を強調してもしすぎることはないと思います。これが、パターンの2です。

〈パターン3〉

・「自由」を奪う緊急事態条項

パターンの3は、若い人に多いと思います。自分の仕事が大事で、誇りを持っている人は中にはいます。いろんな人が自由にいろんな意見を言ったり表現したりするのが好きなんだという個人主義的というか自由人タイプの方々に、ぜひお伝えしてほしいのは、「あらゆる自由が奪われるのだ」という事です。9条改憲と合わせて自民党安倍政権が狙っているのが、先ほど話した日本の立憲主義というのは一切の例外がないと強調しましたが、ここに例外をつけよう、緊急事態条項を新たに創設しようというのが自民党の改憲案のもう一つの柱です。安倍首相が一言、「緊急事態だ」と宣言すれば、安部内閣だけで唯一の立法機関である国会を無視して私たちの自由を奪う、あらゆる命令をいくらでも出すことができるというのが緊急事態条項です。

私たちの自由が後回しになるのです。絶対に私たちの自由を奪ってはいけないというのが日本国憲法ですが、緊急事態条項が作られてしまったら、安部首相が緊急事態と言った途端に、私たちの権利はもう後回しにされてしまって、国家権力の権力が何よりも大事だという話になってしまいます。フランスでも最近それが使われました。何が起きたかという、裁判所の令状なしに家宅捜索4457か所、752人が自宅

軟禁、宗教施設19か所が閉鎖、美術館や図書館も閉鎖、集会の禁止、集会やデモの許可取り消し、外出制限、一部地域での滞在禁止と、どんな独裁国家かという感じです。

という事は緊急事態宣言を使えば、いくらでもできるという事です。そして皆さんで一生懸命反対した、特定秘密保護法や共謀罪というものも併せて猛威を振るうこととなります。今緊急事態なんだから国に逆らうようなことを企んでいる集団というのは盗聴し放題なんだという、そしてこれは犯罪集団だと裁判所の令状なしで家宅捜索・自宅軟禁できるようになったり、そういうことを裁判所の令状なしで行ったりして、気に入らない人たちはどんどん逮捕することができる、気に入らないテレビ局や新聞、メディアというのは禁止することができる、こういう独裁国家、安倍首相がヒトラーになることができるというのが、緊急事態条項の中身です。これは、9条改憲と並んで、ものすごく危険な日本の国の形そのものを変えてしまう、あらゆる自由をなくしてしまうこととなります。

〈パターン4〉

・生活が脅かされる軍事費の増強

さて最後のパターンです。もうこれは、最終手段ですね。あなたの生活が脅かされるんだという、ここがどんな人にも共感される話だと思います。生活実感が大事な方へお伝えしたいのが、この9条改憲や緊急事態条項というのは、私たちの暮らしをことごとく破壊することになるんだという事をぜひお伝えください。

これは防衛費の推移です。最近ホットなニュースでもありましたね。トランプと安部首相が会談して、中身としてトランプに対して、大量のアメリカ産の兵器を日本が購入するという約束をしたと安部首相が発表したのではなくて、トランプの演説から初めてそれが暴露されたという事がニュースになりました。一体いくら買うのでしょうか。こんな感じで実は軍事費というのは2013年までは割と全体としては下がり続けていました。ところが2013年、集団的自衛権の行使などが話題になった時を起点

に、ものすごい勢いで右肩上がりに軍事費が伸びているのが今の日本の実情です。5兆円を突破しました。戦後最大を更新し続けています。

世界軍事費ランキングで日本はすでに7位です。この先アメリカから大量に武器を購入していけば、どれだけのお金をつぎ込むことになるのか、すでにこの前の国会で自民党は提言を出しました。今は軍事費は憲法9条があるからGDP費の1%の枠内にとどめようという話で何となく来たのです。これを2パーセント枠に広げようじゃないかと提言しています。2%枠になると、いったい軍事費いくらという事になるのですかと、野党の国会議員の質問に対して答えたのが、11兆円と回答しました。11兆円かといって別に税収が増えているわけではありません。むしろ大金持ちの法人税が下がり続けている状況で、一体どこに武器を大量に購入する財源があるのか。

そうです、暮らし、消費税ですよ。消費税増税をすでに約束しています。医療費もすでに値上げされているわけで、年金は引き下げられています。ますますこれをやるという話になっていけば、99%の国民が間違いなく今以上に貧困になるというのがこの9条改憲、緊急事態条項の中身だということです。学費はどうなるでしょうね。今でも日本の学費というのは、世界第2位の高さだと言われています。奨学金の制度は世界では給付制の奨学制度がスタンダードなのに、日本では貸与制だというのが国際社会でも批判されているところです。これがさらに奨学金の制度が貧困になっていけば、若い人はどうなっていくのでしょうか？ お金がないから学校に行けないという人が大量に発生するわけです。そこにどういう声かけられるかということ、そうです防衛大学校がありますね、「苦学生を求めています。勉強したい意欲はあるけどお金のない皆さん、防衛大学校へ」と、今でもこういうチラシが散々配られています。

・アメリカの軍事費と若者事情

貧困というのが若者を戦場に追いやっていくというのは、アメリカを見ていけばわかりま

すが、アメリカで若い人が米軍に入る理由が二つあります。一つは学費です。しかも9.11の後には更に手厚くなっていて、大学4年間全部学費を無料にするという事だけでなく、その4年間の家賃も、学業に必要なものすべて国が支給するという仕組みになっています。ですから、若者が米軍に入るトップの理由の一つが学費です。トップ2とされているもう一つはわかりますか？これが実は医療なのです。

アメリカの国家予算は軍事費が突出していて、社会保障にお金が全く回らないという中で、盲腸の手術を受けようと思うといくらかかるかご存知ですか？そうです、200万円から300万円かかるのです。そういうアメリカで米軍に若者が入れれば、その本人だけではなくて、家族みんなが米軍の施設の中でほぼ無料で医療を受けられるという仕組みがあるので、自分は軍隊には行きたくないけど、お父さんやお母さんの病気の治療のために米軍に入るんだという若者がほとんどです。

学費と医療費、これがアメリカの若者が軍隊に入るトップ2の理由です。多くの若者がそのために米軍に入って、アフガニスタンやイラクに連れていかれて、ほとんどの帰還兵がPTSDになって心を破壊されていると、ある統計によれば、1日に平均すると22人の若者が自殺をしていると、せっかく学費がただになるという事で、アメリカに戻ってきても、うつ病になったり、自殺をしてしまって卒業できない学生がほとんどだという、アメリカのある大学の調査データがあります。

1%の大金持ちのために、もっともっとお金儲けをするために戦争というのが行われ、その戦争のために、99%の国民が貧困にされていき、その貧困が若者を戦場に追いやっていくと、余りにも残酷なこのシステムが日本でも今始まるうとしています。

● 自衛隊募集の漫画本

こちらが自衛官募集の防衛相が発表した漫画本の表紙です。今、自衛隊の応募者が激減しています。集団的自衛権の行使の話が出てから、

自衛隊に応募する人が減っているという中で、今防衛相は、自衛隊募集の漫画本を自衛官1人につき2冊ずつ配布して、お友だちに広げてくれという話をしています。ジャーナリストを通してこの漫画本を手に入れました。

漫画本を読む前は、この漫画本にはきっと、アジアをめぐる国際情勢が緊迫していると、皆さんの愛するご家族、愛する国を共に守って、平和を作ろうじゃありませんか、恐らくそういうことが書いてあるのではないかと思いましたが、実際読んでみると、1から10までお金の話しかしていないというのがこの漫画本の中身でした。

かっこいい自衛官の男性が満面の笑みで、「自衛隊に入って、僕は貯金が1000万円貯まったよ」という事を、キラキラした噴き出しで言っているという内容です。もう1枚めくると「いいの、いいの、自衛隊なんて2年か3年でやめてもいいんだよ。再就職率は、100%だよ」と、この「再就職率100%」がキラキラした大きな見出しで書かれていて、自衛隊に入ると、取ることができる資格の一覧表も載っています。

しかも、日本の民間企業はブラックだと批判もしています。防衛相が作成して「あなたがた国がブラック企業を規制しないからそうなっているんじゃないか？」という話です。今の民間企業はブラックだよ、自衛隊はそれに対してホワイトだねという話がひたすら書かれているというのが、この漫画本の中身でした。これをいわゆる、「経済的徴兵制」と言います。法律で強制的に徴兵制度を作らなくても貧困にさせれば、就職難にさせておけば、否が応でも無理やり必然的に戦場に若者を追いやることができるというような仕組みが、今すでに狙われているという事をお伝えしておきます。

● 1%の大企業と消費増税・改憲

以上で、9条改憲、自民党改憲というものがもたらす、私たちの日本や生活がどう変わっていくのかという話をしました。そもそも改憲発言自体が憲法違反、ルール違反だという事、そし

て命が奪われ、平和が安全が奪われてゆき、そして私たちのありとあらゆる自由が奪われてゆき、最後は生活まで粉々に破壊されるんだというお話をさせていただきました。

根っこに何があるのかという事を一言お伝えしたいと思いますが、もちろんトランプが自ら宣言している通り、背後にあるのはアメリカです。アメリカが世界中に多国籍企業、石油産業とか、多くの大企業が世界中で大儲けをするために、軍事力を背景に戦争をしまくっているのが今のアメリカです。そのためにアメリカは税金がかかりすぎているのです。日本に肩代わりをしてほしいという事になります。お前たちだって大企業の儲け仲間同士じゃないか、というのがアメリカの要求し続けてきた内容です。

もう一つ背後にあるのが財界団体という人たちです。この輝く黄金の棒グラフというのは、いわゆる大企業がため込んでいる使いみちのないため込み金、内部留保と言われるものです。皆さんあまりご存知ないかもしれませんが、日本にある会社の99%は中小零細企業です。上場企業で黒字になっているのは、日本の中で1%なのです。この1%の黒字になって使いみちもないよという内部留保金が1997年は142兆円でした。それが2012年には272兆円に倍加しています。

さて今、430兆円というふうに発表されています。バブル期並み、バブル期以上、1%の大企業は儲かっています。彼らが作っているのが、経団連、経済同友会、日本商工会議所などです。この財界団体です。この財界団体が日本の政治家に、政府に、どれだけ要望を出しているか、提言の内容があります。何十年来彼らが言い続けてきたのが、消費税の増税、それから憲法を変えることです。憲法に集団的自衛権を書き込めと、いう事を何十年も言い続けてきたのです。強調したいのはここですね、1%対99%なんだという事をお伝えしたいです。

●99%の民主主義が力を合わせる時代

憲法を変えるという安倍政権のたくらみが結局は大金持ちの1%のためだけの改憲なの

だという事です。これによって99%の人たちが貧困にさせられ、命を奪われていく、若者は戦場に連れていかれることになるんだと、だから、この真実をこの中身をたくさんの人たちに私たちが広めていくことができれば、仲間は99%いるんだという事になります。99%の代表を多数国会に送り込むことができれば、一気に形勢が逆転して、社会を政治の中身を99%のための国民みんなの幸せのための政治に私たちが変えることができる、その武器となる憲法を私たちは持っているんだという事をお伝えしたいと思います。

そして今、この99%が力を合わせている時代なんだという事です。今日ですよ、沖縄の県知事選、でもオール沖縄の代表者が出ているという時点で私は沖縄は本当に素晴らしいと思います。考え方、思想、立場の違いを超えて米軍新基地建設に反対なんだというこの一点でオール沖縄の建白書を作り、新基地建設反対オスプレイ配備反対ということをして全首長が建白書を出して伝えることができ、そしてオール沖縄の代表者をしっかりと選挙で立たせてかつ戦っている。

99%の仲間の民主主義の力というのは沖縄から始まりました。この沖縄の力が本土にも伝わってきています。戦争法に反対するという大きな動きの時に、まさに、立場や政治思想信条、違いを超えて、共同の輪が作られたんだという事をお伝えしたいと思います。そんなこと、今までの日本の政治ではありませんでした。安保改定反対というような協力はありましたが、この立場や思想の違いを超えて戦争する国づくり、憲法を破壊するような国づくりに反対するよ、という若い人たちも交えた大きな共同の輪というのが国会の中にまで影響を与えたというのが歴史上画期的なことだと思います。

今まで行うことがなかった野党に手をつながせて、野党と市民の共同の候補者を立てて参議院選挙を闘って成果を勝ち取ったと、そして、南スーダンへの自衛隊の派遣もこの力で撤退させることができた、この力を恐れて、この間の衆議院選挙では、偽りの希望でも何でもな

い希望の党というのを作って、99%の共同の輪を分断しようという動きもあったけど、めげずに憲法を守り生かそうという立憲野党の全体の勢力としては議席を伸ばしたという中で、今はその仲間たちで 3000 万署名を集めようと、99%の力がしっかりと合わさっている時代に、私たちは希望のある時代に生きています。

●平和共同体が世界の流れ

最後に、世界の流れも希望にあふれているよという事で、世界地図を載せました。これは 1960 年代の世界地図です。オレンジ色のところはみんな争いごとが起きたら軍事力で解決しようよという軍事同盟がオレンジ色の部分で、人口比にすると世界人口の 67%の人たちが軍事同盟下にいました。これがさて、どうなっているのかというのがこちらです。オレンジ色のところが一気に減りました。67%から 16%まで軍事同盟下に生きている人の割合が減っていると、多くの国々がこの間、悟ったのです。軍事力を持っていたって、何にも解決しないし、それどころかテロリストが大量に生まれて、事態はより深刻になり、国も貧しくなって国民も貧しくなってしまうということを世界中の国々が誘って、軍事同盟からどんどん離脱していったのです。そして、みんなで手をつないで争いごとは話し合いで解決しようというルールを一緒に作って、みんなでそれに署名をするという平和共同体というのが世界の流れになりつつあるという事なのです。

残念ながら日本は日米安保条約で日米軍事同盟を作っていますので、この 16%の中に、少数側にいるという事になるのですが、世界の

流れで見れば、憲法 9 条の方向に世界はしっかり前に進んでいると、そしてその平和共同体がイニシアチブを取って、作り上げたのが核兵器禁止条約です。そしてこの平和共同体の話合いで、問題を解決するという世界の流れが生み出したのが、米朝首脳会談や南北の首脳会談という形で、半世紀以上にわたった朝鮮戦争が今終わりを迎えようとしているところまで、世界の流れは前に進んでいるんだという事です。

●憲法は前の世代からのバトン

憲法というのは前の世代からしっかりと渡されているバトンだと思っています。このバトンの中に、さらに私たちは声を挙げる中で、憲法に書かれた権利の中身をもっともって勝ち取っていきたくと思っています。ただ単に憲法を変えるのを阻止するだけではなく、権利の中身を一步一步私たちがいま勝ち取っているときだと思うのです。憲法の中身をさらに豊かにしていつか次の世代に渡すと、このバトン渡しが続く限り、歴史というのは前に進むんだという、これが三上満さんという金八先生のモデルになった方が残してくれた「歴史のリレーランナー」という言葉です。私たちはみんな歴史を走っているリレーランナーだという風に思っています。憲法のバトンをさらに豊かにして、次の世代がもっと生き生きと幸せに生きていける社会を皆さんと一緒に作っていく。そのためには、憲法を破壊するような動きは絶対に止め、3000 万署名を集めきって安倍政権を倒し、憲法が輝く時代を皆さんと一緒に勝ち取って、次の世代に手渡したいと思っています。

ありがとうございました。

(記録・まとめ/嶋田好枝・竹森絹子)

白神優理子プロフィール

神奈川県海老名市生まれ。厚木米軍基地の近くで育つ。基地について幼い頃より関心を持つ。和光高校在学中から、高校生平和ゼミナールを中心に平和活動。世界の子どもの平和像をつくる会や東京高校生平和のつどいの実行委員長を務める。

運動の中で、日本国憲法の本質である平和と民主主義を実現し、困っている人のために法律を使いたいと決意、弁護士を志す。立命

館大学法学部に入學し、イラク戦争反対の取り組みや、立命館大学 9 条の会を立ち上げて活動。中央大学法科大学院で大学院生 9 条の会に参加。2013 年弁護士登録。八王子合同法律事務所所属。日本労働弁護団、過労死弁護団所属。憲法・労働法制などの講師活動に多数取り組む。東京高校生平和のつどい、各地の母親大会などで講演。著書：弁護士白神優理子が語る「日本国憲法は希望」(平和文化)